

感謝

福士泰量

静かに静かに平和を告げる
久遠寺の夕暮の鐘の音が響き渡る
破れはてたる御法の服と
質朴な生活に満足する自分は
完結された今日一日の使命を
佛祖に感謝し
敬虔な祈りを捧げる
そして又明日の幸福を
佛祖に祈るのだ
微笑んだ同寮のK君の顔は
愛と尊嚴さの

佛の色相が寫つて居るぢやないか
さあ歸へらうよ。

短歌

□卒業生を送りて

八とせを學びて君よ去らるとも忘れ得まじな鷺のみ山を
世にいづる君よみ法につくされよやがてつづかん若き吾等も

□更夜の郊外

人たへて月さむしろの郊外をいづこに行くやチャルメラの音

□田舎の夕景

夕陽をあびて遊べるおさな兒らもろ手をあげつ汽車を送れり

石
井
緑
線